



○ MICEの誘致について
○ 自主財源確保と資金調達について

その他の質問 ・映像戦略について ・保護司について

※ MICEとは、MeetingのM、Incentive TravelのI、Convention・ConferenceのC、そしてEventのEの頭文字をとった造語で、ビジネスイベントを総称した呼び方です。

新風会・公明
松山信裕
議員



議 北陸新幹線開業、中部縦貫自動車道の開通を控えて勝山版の※MICEの誘致を積極的に、勝山市で開催していくことができれば、交流人口の増加と地域経済の波及効果やシティブロモーション効果が非常に高いものになる。民間活力と勝山市の魅力を生かしたMICEの誘致に積極的に乗り出すべき。

理 MICEの開催は会場使用料や会議での飲食といった主催者による直接的な支出に加え、参加者による観光、飲食など間接的な支出も見込めるため、通常の観光旅行と比べ、経済波及効果が大きいという認識を持っている。今、外資系の企業も勝山市内に来ているので、その関係も重視しながら、直接的なアプローチに加え、県の観光連盟、勝山の商工会議所と連携を密にして取り組んでいきたい。

一方、MICEをやるには勝山市内宿泊のキャパシティが足りない部分もあり、観光誘致における経済波及効果などもしっかりと念頭に置きながら、宿泊施設の誘致活動の必要があると考えている。

議 ①ふるさと納税の令和4年度の納税額、件数について伺う。また、来年度の寄付金額、件数の達成目標をどのように考えているのか。

理 ①令和4年度の納税件数は4,182件、納税額は9,700万7,000円ということになっている。来年については、制度がある間は、どんどん上を目指すというところで、今年目標よりも予算上は上回って設定をしていきたい。

②企業版ふるさと納税、人材派遣型については、企業からの寄附に加え、企業からの人材派遣により、密接に自治体の事業にともに取り組むことで、関係の強化や円滑な事業の推進が可能と考えている。

今後は、人口が減少し、少子高齢化がだんだん進むため、将来を見据えあらゆる施策で、企業版ふるさと納税人材派遣型の利用や同制度を念頭に置いた企画事業の立案等について研究をしていきたい。



○ 小規模多機能自治の取り組みについて
○ 公共交通について

近藤栄紀
議員
市政会



議 地域のまちづくり、コミュニティの維持にとつては、小規模多機能自治の取り組みが重要である。北郷、遅羽地区以外では小規模多機能自治の取り組みを検討していないようであるが、支援をどのように考えるか。

理 全職員を対象に年度内に3班ぐらいに分け研修をした。小規模多機能自治を推進する最前線は、まちづくり会館の館長、事務職員であり、それをバックアップするのが地域担当職員となっている。そもそも公民館として長い間担ってきた社会教育の必要性が徐々に変化していく中で、まちづくり会館を地域づくり、あるいは地域福祉の拠点としていきたい。そのために小規模多機能自治という概念を取り入れ、基本的に地域の区長会を地域の主導的な組織という位置づけにしている。そこにまちづくり会館職員と、地域担当職員が入っていきながら行っていきたい。今年度は相当の地区がウェブ会議や視察などを実施し、真剣に取り組んでいる。全地区でそういったことが進むよう取り組んでいきたい。

議 本年度より北郷、野向地区では、フルデマンドバスが運行されているが、市街地を含め他地区のフルデマンド化はいつ、どのように考えるか。

理 現状のフルデマンドバスの実績は、2月から10月までの利用者が北郷予約便全体は前年度比1.8%増、荒土・野向予約便全体は前年度比84.8%増と、どちらの便も利用者が増加している。両地区の住民を対象に実施したアンケートには、86.3%の方が今後もフルデマンドバスを利用したいと回答しており、利用者の満足度については高い評価をいただいている。これらの検証結果を踏まえ、来年度以降、フルデマンドバスの運行区域を拡大していきたいと考えている。

また、先進事例を参考に、運転手の確保が困難な中で、効率的かつ持続可能な運行形態を研究し、早期に市街地、公共交通空白地域を含めた市内全域へフルデマンド運行地域を順次拡大していきたい。具体的な運行形態や導入時期については案の段階で議会にお示ししていきたい。